

# 新居浜の

## 産業遺産物語

物語④

### 別子鉱山鉄道の機関車



1 サツキが満開の別子銅山記念館



2 別子銅山記念館で展示されているドイツ・クラウス社製の蒸気機関車

別子銅山記念館（写真1）の敷地には「別子鉱山鉄道」で使用されていた機関車が保存、展示されています。

明治25年（1892年）ドイツ・クラウス社製の蒸気機関車（写真2）と、昭和29年（1954年）住友金属鉱山株式会社別子鉱業所製（部品は株式会社日立製作所製の電気機関車です）。

別子鉱山鉄道は、明治26年（1893年）開通の鉱山専用鉄道で、海拔1,000m余りの断崖絶壁を走る上部線（総延長約5.5km）と平野部を走る下部線（総延長約10.5km）の総称で、日本で最初の索道（※）を併用した山岳鉄道です。上部線は明治44年（1911年）に廃止されましたが、下部線は、昭和4年（1929年）から25年間、鉱山専用鉄道から地域の人々が利用できる「地方鉄道」としても利用されるなど、昭和52年（1977年）まで80年以上にわたり新居浜の大動脈として大きな役割を果たしました。

※索道：上部線の起点（石ヶ山丈）と下部線の終点（端出場）をつなぐロープウェイ。鉱石や生活用品を運搬していました。

別子銅山文化遺産課 ☎ 65 - 1236

広告欄